

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 25 年 9 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

^{めだけ}女岳では噴気地熱域が引き続き確認されています。
地震活動がやや活発な状況になりましたが、地殻変動等に変化はみられません。ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意して下さい。
平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1～2①）

東北地方整備局が仙岩峠（女岳山頂の南約 5 km）に設置している監視カメラによる観測では、女岳からの噴気の高さは 30m 以下で噴気活動は低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図 2②～③）

23 日 05 時 35 分頃に、^{おなめだけ}男女岳の北側約 3 km 付近の深さ約 7 km を震源とする、マグニチュード¹⁾ 1.3 の地震が発生しました。この地震の前後で一時的に地震活動が活発となり、23 日の地震回数は 35 回となりましたが、9 月の火山性地震の回数は 50 回と（8 月：7 回）、23 日以外は少ない状況で経過しました。今期間、空振計等に特段の変化は認められませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

1) マグニチュードは地震の規模を示します。資料中の値は暫定値で、後日変更することがあります。

・地殻変動の状況（図 4）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 10 月分）は平成 25 年 11 月 11 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳からの噴気の状態（9月17日16時00分頃）

- ・仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による映像です。
- ・実線赤丸で囲んだのが、女岳からの白色噴気で高さは30mです。

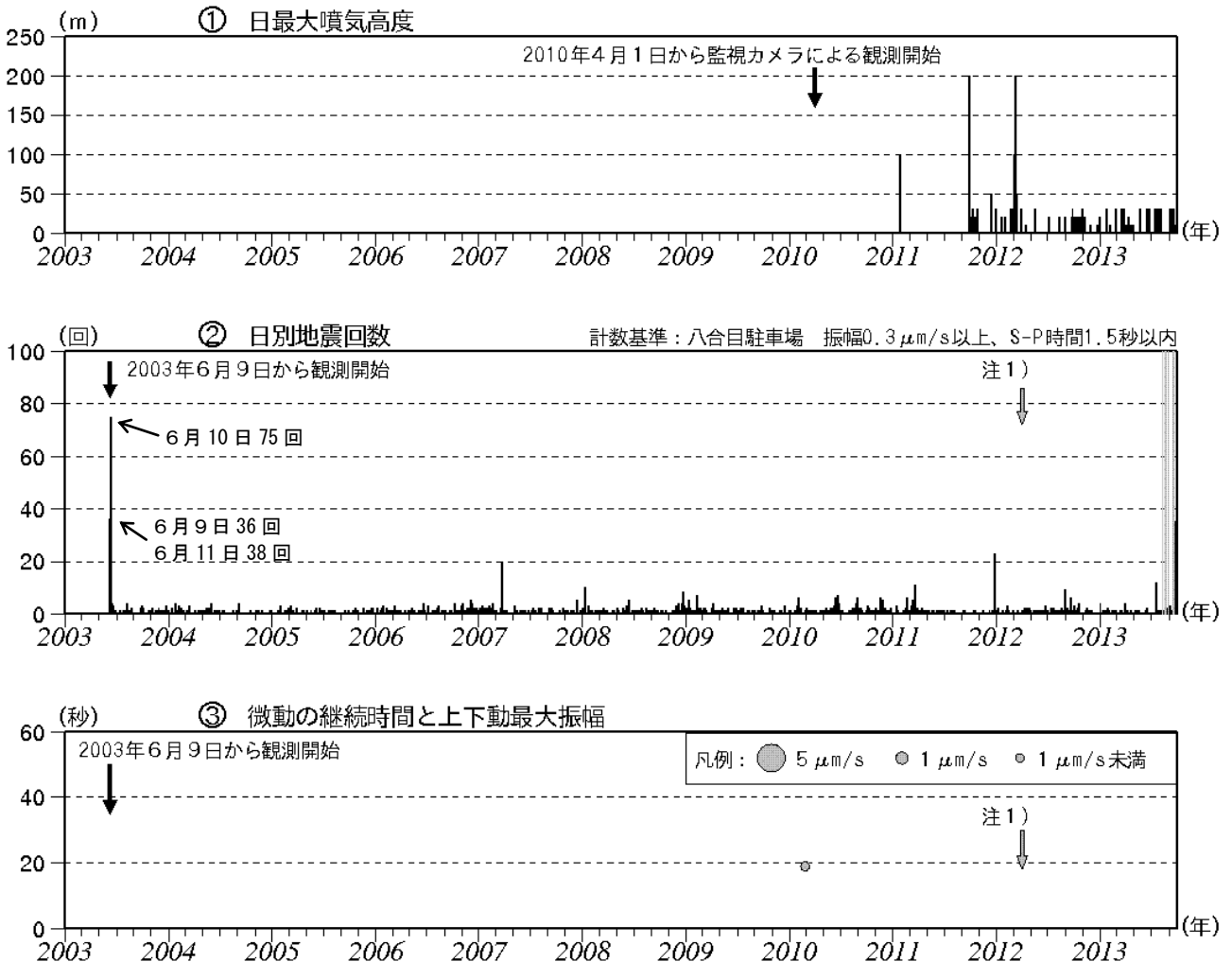


図2 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2013年9月）

- ・①熊ノ台（女岳山頂の南西約5km）及び仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による観測です。
- ・②③基準観測点の変更は次のとおりです（角カッコ内は地震回数の計数基準）。
観測開始 2003年6月9日～東北大学秋田駒ヶ岳観測点 [振幅0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内]
注1) 2012年4月1日～八合目駐車場 [振幅0.3 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間1.5秒以内]
- ・今期間（2013年9月）は、機器障害により欠測となっている期間があります（②の灰色部分）。

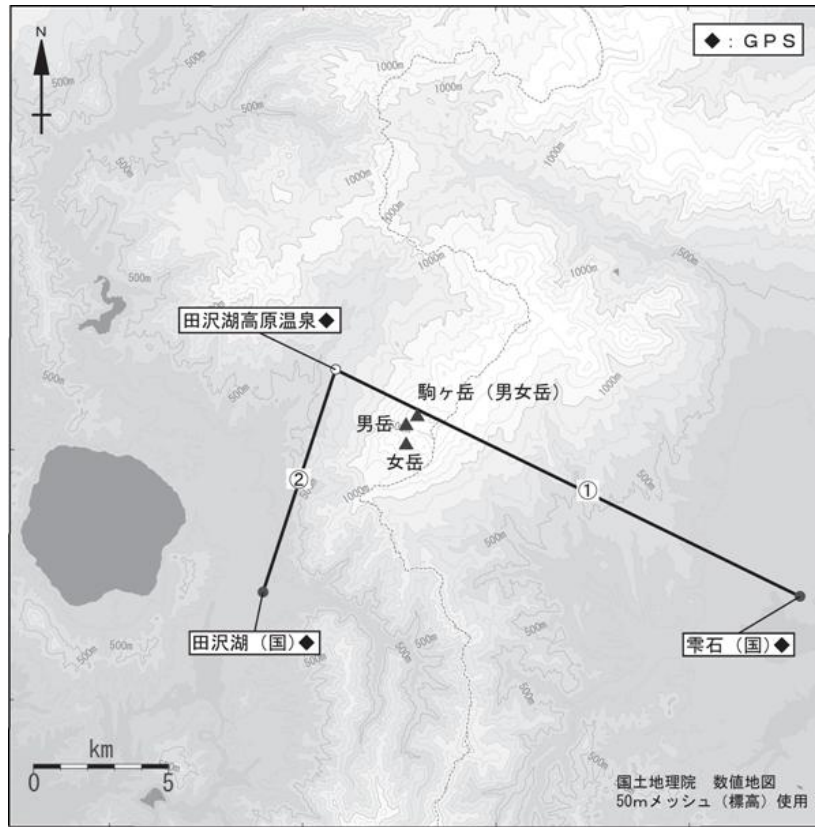


図3 秋田駒ヶ岳 GPS 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院

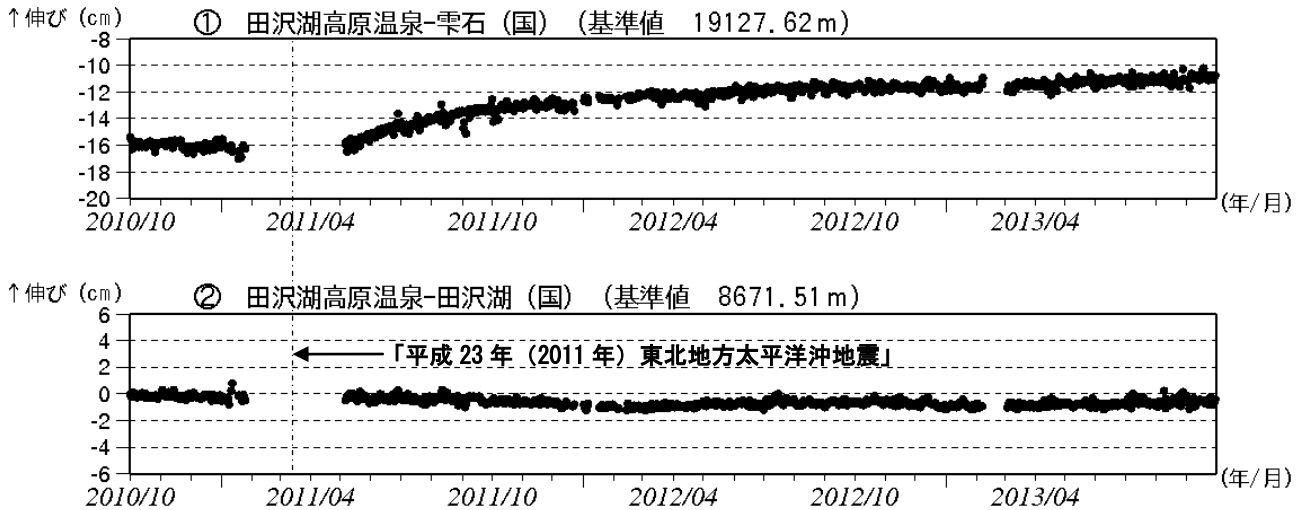


図4 秋田駒ヶ岳 GPS 基線長変化図（2010年10月～2013年9月）

- ・①の基線では、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。また、その後の変動は、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・①～②は図3のGPS基線①～②に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。

（国）：国土地理院

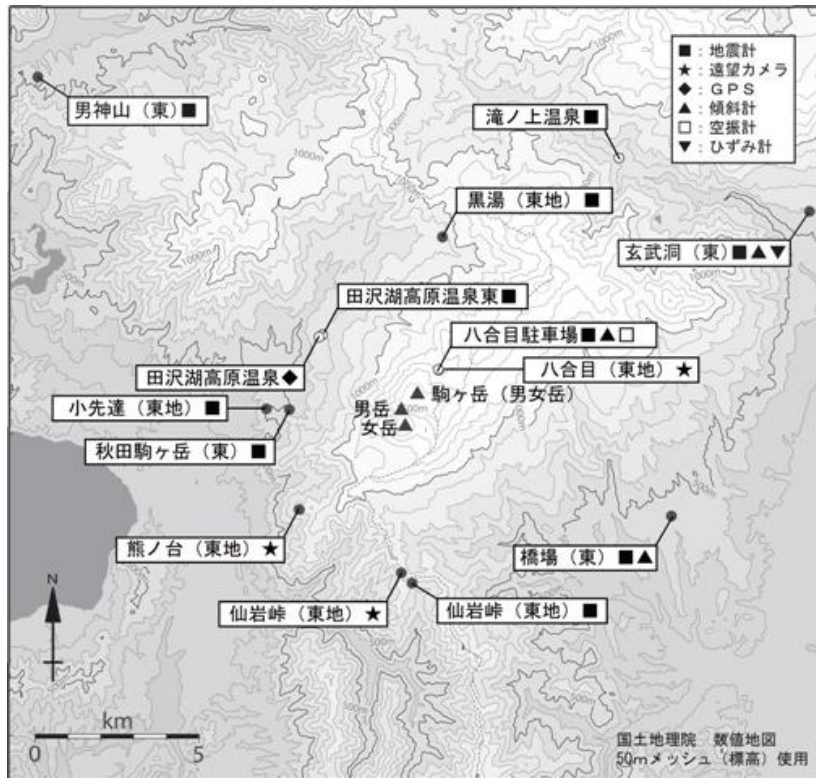


図5 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （東地）：東北地方整備局